南串山地域審議会

提　言　書

平成２６年３月１２日

はじめに

雲仙市は合併から８年が経過し、雲仙市総合計画に掲げる市の将来像「豊かな大地・輝く海と、ふれあう人々で築く、たくましい郷土」の実現に向け、市民が主役・市民総参加による、市の総力を結集したまちづくりが進められておりますことに、心から敬意を表します。

さて、私たち南串山地域審議会委員１５人は、平成２４年７月に市長から委嘱を受け、「地域審議会の設置に関する事項」第３条に基づき活動を始めました。

市の総合計画や地域振興計画、前委員の提言書などを基に南串山地域が抱えている課題等について地域住民の声を新市の施策に反映させるため審議を尽くして参りました。

提言書の作成に向けた定例会を５回開催し、地域の様々な課題を市民目線で見つめ、現状と課題を踏まえた解決策の有り方をまとめてみました。

本地域の活性化には、農業・漁業の振興が最も重要なことから「第１次産業の振興策について」、未婚者への婚活支援と子育て環境の整備により人口減少を食い止める「人口減少対策について」、地域資源を活かした交流人口の増加策「交流人口対策について」をテーマに提言書をまとめたところであります。

委員一同、地域の課題を少しでも改善していただきたいと思いを込め、「住みたい・住みやすい」まちづくりの実現に向けて、南串山地域審議会として提言いたします。

平成２６年３月１２日

雲仙市長　　金　澤　秀　三　郎　　様

南串山地域審議会

会長　岡本　文隆

提言１『第１次産業の振興策について』

１．現状と課題

南串山地域における第１次産業の就業者割合は市内で最も高く、本地域の振興を行う上で、農業・漁業への振興策が非常に重要なものとなっています。

本地域の農業は露地野菜の栽培を中心に営まれ、農地の基盤整備や経営規模の拡大も進んでいることから、専業農家率は高くなっております。しかしながら、農業従事者の高齢化や担い手の減少に加え、生産コストの高止まり等、農業を取り巻く環境が厳しい状況の中、収穫時等の繁忙期における人手不足を解消し、経営の安定化を図る取り組みが課題となっております。

漁業においては、沿岸漁業や養殖漁業等が行われておりますが、橘湾沿岸の磯焼けなど自然環境の変化による漁獲量の減少や、価格の低迷、燃油の高騰等により、漁業経営の安定化、漁業従事者の減少が課題となっております。

２．提言

基幹産業である第１次産業を活性化させ、「高校を卒業しても残れるまち」となるよう、露地野菜の販売額の増加に向けたブランド化・高付加価値化への取り組みや、地域の農水産物を利用した、６次産業化へ向けた商品化への取り組みを行う必要があります。

≪取り組みにあたっては≫

・露地野菜について、他地域との差別化を図り、収益の増大と生産振興に向け取り組む必要があります。

・農水産業の６次産業化への展開を目指し、地域の農水産物を利用したインパクトのある商品の開発が必要です。

・インターネットによる販売に加え、人が集まる場所やイベント時の販売など、あらゆる機会を活用して農水産物のＰＲや販売に対する支援を図る必要があります。

・市全体で年間を通した収穫期の農産物の把握を行い、雇用体制の繁忙期のシステムを確立することにより、雇用を生み出すことができる仕組みづくりが必要です。

提言２『人口減少対策について』

１．現状と課題

本地域の人口は平成22年の4,093人（国勢調査時）から10年後の32年は3,273人、20年後の42年は2,567人と推計されており、少子高齢化に加え働く場が少ないことや、県央地域までの通勤圏には遠いことによる転出が増えており、人口の減少が問題となっております。

特に、未来を担う子どもたちが急激に減少していますが、一因として、未婚者が増加していることから、まずは、独身男女の交流・出会いの場づくりが課題となっております。

また、子育てはお金がかかり、経済的な観点で出生が少なくなっている要因もあることから、生み育てやすい環境の整備が課題であります。

２．提言

急激な人口の減少を抑えるため、未婚者の婚活を支援するとともに、子育て世帯への経済的負担の軽減など、子どもを生み育てやすい環境の整備を図る必要があります。また、地域住民が定住できるまちをつくるためには、通勤圏となる県央地域までの時間短縮を図る必要があり、愛野小浜バイパスの早期実現等、交通アクセスを改善する必要があります。

≪取り組みにあたっては≫

・結婚したくても出会いがない独身者も多いことから、出会いの場を創出するなど婚活への支援が必要です。

・子育て世帯への経済的負担の軽減により安心して生み育てられる環境と、子育てを支援する環境づくりが必要です。

提言３『交流人口対策について』

１．現状と課題

本地域には、大自然を満喫でき、島原半島ジオパークを構成する「県立自然公園国崎半島」と、「棚畑・棚田」の美しい風景が楽しめ、フォトスポットとなっている棚畑展望台などの地域資源があり、また、雲仙市で一番大きな文化ホール「ハマユリックスホール」を有しておりますが、十分活かされていないことから、今ある地域資源を活用した交流人口の拡大策が課題となっています。

２．提言

本地域の交流人口の増加を図るため、県立自然公園国崎半島や棚畑展望台についてはブルーツーリズムの拠点づくりとして、また、ハマユリックスホールは文化・教養の拠点として活用を図るとともに、これまでの南串山の歴史を振り返り、地域の歴史の発掘とＰＲを行い、交流人口を増加させる必要があります。

≪取り組みにあたっては≫

・ジオパークを構成する国崎半島と、棚畑の美しい風景を望める棚畑展望台等の地域資源を利用したウォーキングコースの設定や魚釣り、農作物の収穫作業など体験型の観光スポットとしてＰＲを行い、交流人口を増加させる必要があります。

・市内で一番大きな座席数を有するハマユリックスホールを、文化・教養の発信拠点とし、市のイベント・発表の場のほか、定期的に音楽祭や演劇・講演会の誘致を図り、ホールの使用回数を増やす必要があります。

・これまでの南串山の歴史を振り返り、第二次世界大戦時の震洋艇（人間魚雷用舟艇）や江戸時代の小豆島からの移住、昔ばなしとして残る武壮五郎伝説など、地域の歴史をわかりやすく説明・ＰＲし、地域の自然・歴史・文化に触れ、交流人口を増やす取り組みが必要です。